

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力	育てたいとの関わり	基本施策	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点
方針・重点・郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①深い学び ②地域との協働 ③生きる力を育む ④一人ひとりの居場所をつくる	自主性・創造性・協同性	『つなぐ力』と『伝える力』	自ら探求する力	教科・領域・特別支援	①「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学び」の実現 ①「指導と評価の一体化」の実現 ②就労まで見通した支援の実現	・1時間の生徒対話時間50%以上 ・各教科における「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学び」の確立 ・ICTの活用を含めた3観点の評価内容の見直し ・個別最適な学び(複線化)を含めた3観点の見直し ・個々の就労まで見通した支援計画の確立 ・就労まで見据えた個別懇談の実施	93% 85% 95%	○『1時間の生徒対話時間50%以上』を目安に各教科指導を行うことにより、生徒が主体的で必然のある対話の中で学ぶ授業になってきている。 ○本校は、県指定『指導と評価の一体化』事業を受け、岐阜大学益子教授と共同研究の形で、全教師が担当教科の個人研究構想をつくり、教師と生徒が同じ視点から評価できる授業に取り組むことができた。 ○将来の夢と卒業後の進路について、生徒一人ひとりに寄り添って考える支援計画を作成し、進めることができた。 ▲生徒自身が自己評価能力を高められるような、授業改善を次年度は取り組んでいく。
				郷土教育	③「つなぐ力」をつける郷土教育の推進	・高山ブランドの自然、文化遺産、地場産業の資料作成 ・「地域をひまわりでつなぐ」活動の推進	97%	□生徒たちの未来に必要なと思われる資質・能力は『つなぐ力』『伝える力』ととらえ取り組んでいる。 ○『つなぐ力』とは、ICT等により地域とつながる、全国とつながる、世界とつながる経験ができるようにする。修学旅行の広島では外国人観光客とつながることができた。また、シンガポールの留学生と日枝中生徒が1週間、授業を中心につながる事ができた。	
				キャリア教育	③「伝える力」をつける郷土教育の推進	・インバウンド観光の外国人との交流	97%	○『伝える力』では、外国人観光客に英語で伝える経験ができた。また、平和学習では、プレゼンを作り、まとめ、発表することができた。	
				生徒指導・教育相談	②未来社会を見据えた職場体験の推進	・持続可能な地域を目指した職場体験事業所の拡大 ・SDGsの考えた活動について専門家から学ぶ	100%	▲次年度は、『飛騨高山学』として、平和学習、ひまわりプロジェクト、職場体験学習等の取り組みを進める。	
				生徒指導・教育相談	④多様性と個性の理解	・教科や領域の中で一人ひとり価値観、力量の違いを常に評価する授業の実施	100%	○日枝中学校の教育の基盤として、『生徒一人ひとり価値観が違い、力量も異なっている。』という多様性と個性の理解が『いじめ』の未然防止や不登校未然防止につながるということで、全学級で取り組んでいる。	
				生徒指導・教育相談	②居場所の確保	・生徒一人ひとりが願いや目標をもって取り組める場所の確保と活用(教室、相談室の個人、小集団、学校外)	97%	○多様性を踏まえ、生徒一人ひとりの居場所の確保として、校内教育支援センターには、一人の居場所、少人数での居場所、グループでの居場所、と複数の居場所を確保し、生徒自身が居場所を選択できるようにした。	
				生徒指導・教育相談	④いのちの教育の推進	・防災教育、健康教育、いじめ未然防止等におけるいのちの教育を出口とした授業の実施	90%	▲次年度は、いのちの教育の充実を図るため、防災教育、生徒指導、健康教育と『いのちの教育』をつなぐを意識した授業や活動に取り組んでいく。	

学校運営協議会における主な評価内容

○私も(委員)受けたい授業が多くあった。課題が興味関心のもてるものであり、深く考える姿が多く見られた。
 ○年間を通じ、生徒の集中して考える姿、仲間と自然な対話で学ぶ姿が見られ、空気間の良い授業が多い。
 ○多様な生徒の居場所の確保は、とても良いことで、生徒が選択できる方法で、今後も進めていってほしい。